「シンセサイザーの教育実践への活用」

領域名：成人保健看護

報告者： 具志堅　翔子

教育及び実践の課題

成人保健看護演習では、学生は看護過程と看護技術の事前学習に取り組み、演習へ参加しているが、学生中心の Team Based Learning（以下 TBL）とはなっていない。事前学習の内容を意味づけし自主学習で学びを深められるようにデジタルメディアを利用した内容や方法を工夫し、TBL へつなげることが求められる。その中で課題となるのが、教育媒体（デジタルメディア）の安全な取り扱いである。具体的には、大学関係者のみ使用できること(アクセス権)や情報流出を防ぐシステム整備が必要である。また臨床実習へ出る前に「学習とは」や「グループ学習」について知り、学習へ臨む姿勢（個々人の責任・貢献など）を理解できるような意味づけを行うことで、各領域で学ぶべき知識や技術に集中して取り組めるため、学習効果としても改善が望まれる。

活用した論文の概要

反転学習が学部看護学生の学業成績、チームワークスキル、学習満足度に与える影響を検証することを目的に、2 グループでの無作為化比較試験を行った。反転学習グループでは反転学習法によるシミュレーションベースの TBL 教育が提供され、対照グループでは従来のシミュレーションベースの教育が提供された。10 週間のプログラム修了後、学業成績、チームワークスキル、満足度の評価・分析を行った。結果として、反転学習グループは理論的知識や臨床看護実践能力の分野を含め、学業成績、チームワークスキル、満足度について、対照グループよりも高いスコアを獲得し、2 つのグループ間のスコアの差は、この調査を通して 2 つのグループ間で徐々に増加したと報告されている。結論として、看護教育におけるシミュレーションベースの反転学習法が、肯定的で統計的に有意な効果を実証したことが示されている。

教育及び実践への活用

今年度は、COVID-19の影響によりクリティカル・緩和ケア実習が、学内実習となった。事例を活用しての看護展開(術後1～6日目)とシミュレーションをベースとしたプログラムとし、自己学習として様々なデジタルメディアから学習内容に沿ったVOD視聴を取り入れた。実習中はTBLを行い、事前学習を含めた学習内容を、グループメンバーで共有し、活発なディスカッションが行われた。教員は学習目標の達成に向けディブリーフィングを通して、問題解決のために関わった。反転学習を通して、学生は知識や技術、問題の内容を共有することで、グループ全体の学力の向上と実習中の態度(積極性)の改善につながったと感じる。また、技術面では実習でのシミュレーションと自己学習のVOD視聴を連動させることで、実践と知識のつながりができ、臨床実践能力の向上にもつながると考える。実習最終日の学生の感想では「メンバーから得た学び」や「メンバーの客観的な意見が貴重だった」などが多く挙げられ、シミュレーションおよびディブリーフィングを通して、学生間における相互作用の促進と協調関係の形成に影響していることを示している。今後は、成人保健看護演習やクリティカル・緩和ケア演習でも、より効果的で安全なデジタルメディアや資料を積極的に取り入れ、反転学習の実践に向け取り組むことが課題である。

参考文献

HeaRan Kim,YounKyoung Jang. Flipped Learning With Simulation in Undergraduate Nursing Education. Journal of Nursing Education,56(6),329-336,2017